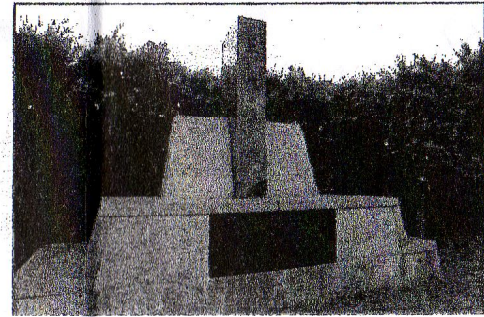


圃場整備事業竣工記念

豊 穰 の 礎

北海道知事 横路孝弘書

●一本木（一本木集落センター）



大野町の三大用水の一つ、一本木用水を水脈とする一本木地区は、慶應元年（一八六五）二千五百二十間余（四千五百八十二メートル）の引水を我々の先人が計画、着工したのが土地改良事業の始まりであります。しかし、長距離であり工事の費用が尽きて中止されました。その後、水田が年々増加し水の必要量も増加するにつれ、明治三十年（一八九七）経費総額二千五百円余を投じて、浚せつ作業を施工し、護岸を築き、水門を設けて一本木用水は完成し、以来今日ある水田地帯への水は確保されてきました。しかし、農業情勢の変遷に伴い機械化農業の導入、合理的な水管理と汎用耕地による生産性の高い土地条件の整備が急務となり、昭和五十六年（一九八一）一本木地区道営圃場整備事業推進期成会を結成し、関係機関の協力と指導のもと事業計画を樹立した。翌昭和五十七年受益面積八十一ヘクタールの圃場整備事業が起工の運びとなり、以来六年の歳月と装総事業費八億一千三百万円を投じて、ここに完成を見ました。

事業の推進にご協力を頂いた多くの方々に、深く感謝の意を表するとともに、事業の完成を記念して碑を建て、この偉業を永く後世に伝えようとするものです。

昭和六十二年十一月吉日

一本木地区道営圃場整備事業推進期成会

会長 山田富太郎